

# 親潮

北水同窓会誌

298

No.2

第 298 号  
平成 23 年度 第 2 号

OYASHIO

北水同窓会 <http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp>



特 集

北水の今

- ▶ 16年ぶりの入試制度変更と水産学部の対応
- ▶ 北海道大学水産学部先端環境制御実験棟 竣工

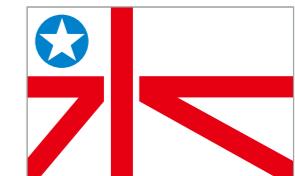
総会案内 会員の受賞 追悼 寄稿 クラス会報告 著作紹介 ほか

## CONTENTS

第92回(2012年)北水同窓会定期総会 開催案内	3
<b>特集 北水の今</b>	
<b>16年ぶりの入試制度変更と 水産学部の対応</b>	4
佐 伯 宏 樹(特別会員)	
<b>北海道大学水産学部 先端環境制御実験棟 竣工</b>	6
都 木 靖 彰(昭59才)	
<b>会員の受賞</b>	8
桑 原 浩 一 氏(平20博生命)/吉 岡 武 也 氏(昭60食)/宮 下 祥 子 氏(平6化) 鈴 村 光 太 郎 氏(平3才)/関 秀 司 氏(昭57化)/宮 下 和 士 氏(平3才)/高 橋 是 太 郎 氏(昭50食)	
<b>追悼</b>	11
辻 野 勇 氏(名誉会員)/正置 富 太 郎 氏(特別会員)	
<b>寄稿</b>	14
記念すべき第10回北大寮歌祭と大盛況だった若鮎会——表 芳 弘(昭52才)	
<b>クラス会報告</b>	15
第16回臥洋会始末(昭36・水産学部卒同期会)支笏湖の夜/北水同窓会京滋支部総会報告 北水昭和43年卒業同期会/北水同窓会広島支部会'11報告/「おしょろ丸を秋田に迎える」 平成23年度 北大水産学部同窓会in岐阜/北水同窓会函館支部 平成23年度 総会・懇親会 北水同窓会函館支部 平成23年度 秋の同窓会の報告	
<b>著作紹介</b>	22
<b>会員の異動</b>	24
<b>学位取得と論文題目</b>	24
<b>会員死亡通知</b>	25
<b>親潮投稿規定・編集後記</b>	26

# 第92回(2012年) 北水同窓会 定期総会

## 開催案内 [大阪にて開催!]



ようやく春めいて参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。  
第92回北水同窓会定期総会を下記の通り大阪にて開催いたします。  
多数の同窓のご出席を心よりお待ちしております!

日 時 ● 2012年6月30日(土)

会 場 ● トップラウンジ 31

(割烹うおまん 中之島店)

大阪市北区中之島6丁目2番27号

中之島センタービル31階

Tel : 06-6445-1977

アクセス : 京阪電車(中之島線)

中之島駅 下車 徒歩3分

受 付 ● 14:00~15:00

総 会 ● 15:00~16:00

本部総会・支部総会

講演会 ● 16:10~17:10

演題: 私見『内村鑑三と宮沢賢治』

演者: 野呂 雅之氏(昭56才)

朝日新聞 論説委員

懇親会 ● 17:20~19:30

会 費 ● 6,000円



総会参加希望の方は「1.お名前」、「2.卒業年・学科」、「3.連絡先住所」、「4.Fax番号・電話番号・E-mailアドレス」を  
**6月10日(日)までに**下記お申し込み先までFAXまたはEメールにてお申し込みください。

お問い合わせ  
お申し込み先

**北水同窓会大阪府支部** 〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目2番2-200号  
大阪駅前第2ビル 2階西フロア 北大会館内

TEL・FAX共通 06-6343-3736 支部長: 田中文夫(昭50食) 事務局長: 佐々木雅人(昭56才)

メールでの申し込み

FAXでの申し込み

ホームページ

支部メールアドレス : [hokusui-osaka@mail.goo.ne.jp](mailto:hokusui-osaka@mail.goo.ne.jp)

FAX : 06-6343-3736

<http://www015.upp.so-net.ne.jp/hksiosk-ki/>

# 16年ぶりの入試制度変更と水産学部の対応

佐伯 宏樹

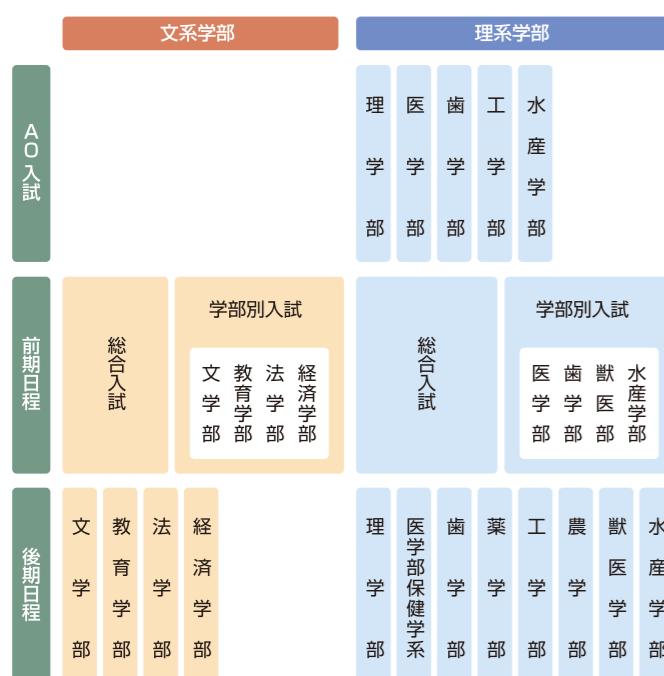
(特別・大学院水産科学研究院 教務委員長)

北海道大学では平成23年度から「総合入試」という新しい入学試験制度を導入しました。これは大学入試と専門分野の選択を切り離す試みです。総合入試制度の導入は、単に入学試験の方法変更にとどまらず、大学教育のデザインに大きな影響を与えるものです。本稿では、この新しい入試制度と水産学部の対応について紹介いたします。

## ■ 総合入試

「入学後に自分の専門や所属する学部を決める」これが総合入試の基本理念です。総合入試枠で入学した学生は、入学後の10ヶ月間で学部・学科を選択し、取得単位と成績に基づいて志望学科に移行(所属)することができます。これは1994年までの理類・文類入試(理・文I、II、III)によく似ていますが、過去の制度との違いは、2年生になった際に学部だけでなく学科を選択する点です。また、学部別入試とAO入試も従来と同様に実施されます。つまり北大入試には3種類の入試制度が並立することとなり、水産学部はこの全ての入試制度を運用して学生募集をおこなっています。

総合入試では理系枠(1027名)と文系枠(100名)が用意されています。この枠で入学した学生諸君は、入学後に学部・学科を選択します。学部定員に占める総合入試枠の割合は、学部によって大きく異なります。水産学部では19%、農学部と工学部では75%、理学部では学科ごとに65—80%、また医学部では5%の学生を総合入試枠で募集しています。詳細は大学ホームページ(<http://www.hokudai.ac.jp/>)をご覧下さい。



■北大の募集単位概念図

最近の大学からの情報発信量は、従来に比べると飛躍的に増加しています。しかし、高校生にとっては「やりたいことはあるが、どの学部に入学すればいいかわからない」といった悩みや「まだ自分が何を勉強したいのか全然わからない」といった戸惑いが、完全に解消されているわけではありません。また現在では、学問分野が複雑に細分化・融合化し、同じ学部内でも学科間で学ぶ内容が大きく違っている場合があります。また、学部が違っていても、学問領域がオーバーラップしていることもあります。たとえば、遺伝子工学というキーワードは、理系の全学部の中に関連学科があり、水産学部も例外ではありません。そこで、「新入生が学部・学科の選択を入学後におこなうことで、各学部の教育研究の内容を充分に理解し、納得のいく進路選択ができる」というのが、総合入試制度を導入した主な理由です。

昨年から、総合教育部(全1年生が所属する教育組織で学部とは独立しています)にアカデミックサポートセンターが設置されました。ここでは1年生を対象として、アカデミックアドバイザー(専任教員)による進路や履修の相談、スタッフや学生ボランティアによる講義外での学習サポート、学習スキルに関するセミナーなどがおこなわれています。

## ■ 水産学部の入試制度

水産学部の募集定員は215名です。水産学部は、かつての理類・文類入試の際にも水産類として実質的に学部別入試を行っていましたが、今回の制度改定では、一部の学生を総合入試合格者から募ることといたしました。総合入試合格者の水産学部進学枠は40名です。先に述べたように北海道大学の学生募集は、総合入試制度に1本化されたわけではありません。従来と同様、入試の段階で特定学部を受験する入試枠も存在しています。水産学部はこの学部別入試で155名(うち前期試験で105名、後期試験で50名)を募集しています。これまで全国から進学希望者が集っていることと、キャンパス移行制度の存在を理解して進学することを推奨する立場から、学部別入試に重きを置いた募集体制を取っています。また同時に、総合入試枠を活用して、大学進学後に水産科学を志した学生諸君の進学にも、期待を抱いております。

さらに、高校3年生を対象にしたAO入試(20名募集)を実施しています。これは、学力を含めた多様な個性・能力・資質・適性・目的意識や意欲を、提出書類、課題論文及び面接等で総合的に評価するもので、すべての教員が対応に当たって実施しています。

## ■ 初めは総合教育部に、二年次から水産学に所属

すべての一年生は、入試枠に関係なく「総合教育部」に所属し、全学教養科目(語学を含む)と基礎科目(物理、化学、生物など専門教育の基礎となる科目、理系実験を含む)を受講します。また入試枠とは無関係にクラス分けされるので、さまざまな立場の一年次生が同席することとなります。学部の専門科目は一切開講されないので、「水産学部一年次生」は制度的に存在しません。ただし、水産学部進学が内定している学生諸君には、9月に開講される「おしゃろ丸乗船実習」の履修を推奨しています。これは海という研究フィールドに対する理解を深めることを目的とした入門演習です。今年の場合、学部入試枠とAO入試枠で入学した学生の約8割が2泊3日の乗船実習を履修しました。そして、海洋調査やイカ漁を体験してフィールドに親しむと共に、函館キャンパスを見学しました。また水産学部では、春と秋の2回、学科説明会と嵯峨研究院長を囲む懇親会を札幌キャンパスで開催し、水産学部生となる自覚の涵養に努めています。

年が明けて2月になると、学部入試枠とAO入試枠で入学した学生は、水産学部の4学科(解消資源科学科、海洋生物学科学科、増殖生命科学科、資源機能化学科)の中から志望学科を選択します。また総合入試枠の学生は、全学部・学科の中から志望学科を選択します。そして二年次になると、全学生の所属が決定します。水産学部に所属する全学生にとって、入試枠などに関係なく同じスタートラインに立つ水産科学を学ぶこととなります。

## ■ 函館キャンパス移行は三年次から

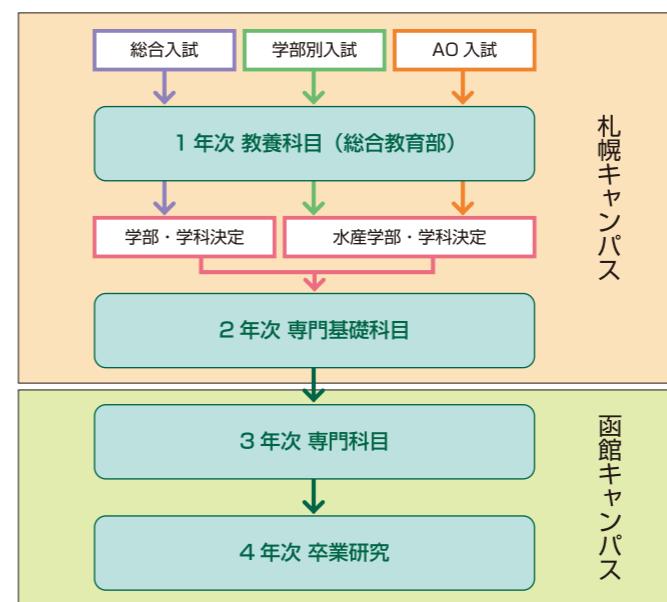
水産学部生にとって、キャンパス移行は学生時代における最大のイベント(事件!)でしょう。ある者は新しい土地への期待に胸を膨らませ、ある者は恋人や友人との別れに涙するものです。キャンパス移行は、これまで二年次の9月に実施しておりましたが、平成24年からは二年次終了後に実施いたします。

この移行時期の変更は、札幌キャンパスにおける学生生活の充実と修学環境の改善が目的です。キャンパス移行時期を学年暦と一致させることにより、これまで二年次後期で受講できなかった教養科目や語学科目が継続的に受講可能となります。また、免許取得科目を札幌キャンパスで1年間受講できるので、教職免許科目(水産、理科)については余裕をもった修学スケジュールを組むことができ、さらに、かねてから要望のあった学芸員資格が、学部在学中に取得可能となります(H23年度入学者から)。また何より、さまざまな課外・学生活動に2年間参加できるので、学生諸君には、札幌キャンパスにおける学生生活をより有意義なものにしていただきたいと考えております。

水産学部では、総合入試制度の導入とキャンパス移行時期の変更に伴い、二年から四年までの学部教育に関するカリキュラムの整備をおこないました。札幌での学生生活が半年延長されるので、二年次を専門基礎科目の修学機会と捉え、1年間を通じた講義内容の見直しをおこなったところです。また学生指導については、函館キャンパスの関連委員会や学科担任と札幌キャンパス常駐の教員(大学院環境科学院と農学院に所属の)間での連携を密にして実施する予定です。

## ■ さいごに

良質で社会に開かれた入学試験の実施は、現代の大学制度の根幹にかかわるものであります。入試制度は「時代と共に変化することが前提であり、また正解はない」と言われます。今回の入試制度の変更には、オール北大の莫大な人的・時間的・金銭的資源が費やされています。また、水産学部では、軌を一にしてキャンパス移行時期の変更とカリキュラム改革を実施したので、教育スケジュールが大きく変化しました。この総合入試への対応とカリキュラムの改革に関しては、学部内でさまざまな視点からの議論をおこない、その決定と準備に2年間を費やしました。これら変革の試みが、学生諸君の修学と諸活動によい影響をもたらすことを、切に願っております。今後も母校の教育・研究活動に一層のご理解とご支援を賜りたく、よろしくお願いいたします。



■水産学部生の修学スケジュール

# 北海道大学水産学部 先端環境制御実験棟 竣工

都木 靖彰（昭59ゾ・水槽実験施設管理委員会 委員長）



このたび、北大水産学部における水産生物の飼育実験を担ってきた飼育設備「水槽センター」が立て替えられ、新しく先端環境制御実験棟として生まれ変わり、その竣工記念内覧会と祝賀会が北海道大学総長 佐伯 浩先生、理事・副学長 三上 隆先生、理事・事務局長 高杉 重夫 様らを迎えて、2011年9月1日に執り行われました。式典では佐伯総長先生よりお祝いの言葉と励ましの言葉をいただき、使用者一同、今後のますますの教育研究活動の発展を心に誓いました。記念式典の後には、施設見学会が催され、佐伯総長先生も最新の飼育施設に驚かれた様子でした。



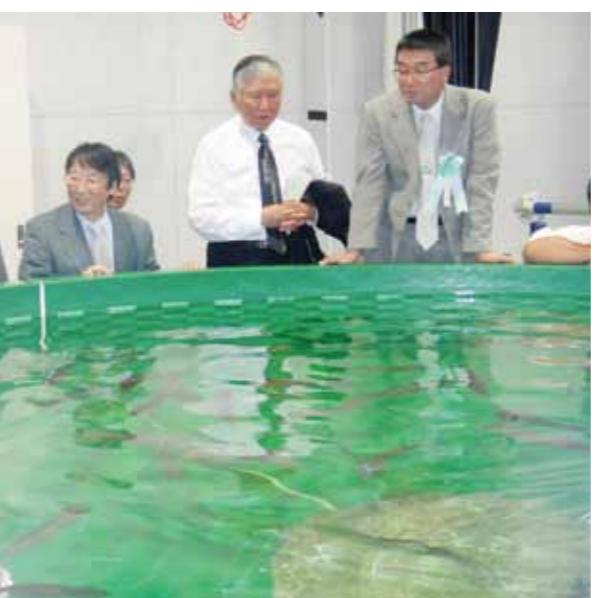
▲総長挨拶

では、新しい施設の概要を紹介しましょう。新施設の土地面積は旧施設とほぼ同じですが、延べ床面積は1172.28m<sup>2</sup>と旧施設に比べて約210 m<sup>2</sup>ほど広くなっています。そのぶん、外池のスペースが狭くなりましたが、円型FRP水槽の設置などで効率的に土地を利用することで、十分な飼育スペースを確保するよう努めています。建物は大空間をクリアするために鉄骨造を採用し、開口部には日射熱などの外部負荷を軽減するためLow-Eガラスとブラインドが設置されています。また、外壁には厚さ100 mmの断熱材が設備され、夏の酷暑と冬の酷寒に悩まされることなく、安定した環境で水産生物の飼育実験ができるようになりました。夏の温度上昇を軽減するための水気化冷却式給気装置も採用され、省エネにも配慮した建物です。屋上には海水タンクも設置され、海水掛け流しの飼育には対応できないものの、海産魚介藻類の飼育実験も可能になりました。また、深さ5mのコンクリート製大型音響水槽が設置され、この分野の研究の一層の進展が可能になりました。



テープカット  
右から、高杉理事・事務局長、三上理事・副学長、佐伯総長、嵯峨水産科学研究院長、都木水槽実験施設管理委員会委員長

建物内は、音響探査実験等をおこなう「技術開発実験ゾーン」、環境を制御して水産生物を飼育できる「環境制御実験ゾーン」、遺伝子組み換え生物を飼育できる「遺伝子操作実験ゾーン」、魚介類に感染する病原体を扱った飼育実験ができる「感染実験ゾーン」にゾーニングして、効率的な利用を図る設計となっています。各水槽飼育室には電源、市水、海水、プロアなどを上部の手の届く範囲に供給することで、利用者の利便性が向上しました。また、建物内はすべてタイマー制御照明となっており、光環境も自由に制御できます。旧施設ではコンクリート水槽が設置されており、使用者側が既設水槽に合わせて水産生物の飼育を工夫していましたが、新施設では音響水槽を除きコンクリート水槽は一切設置されていません。実験に合わせて、都合のよい大きさ、形状のFRP水槽やキャンバス水槽を設置して実験を進めることができます。現在、建物内、屋外ともに様々な大きさの円型水槽や角型水槽が設置され、実験が進められています。



▲ウナギ飼育水槽の見学



▲イカ飼育水槽の見学

旧施設において最も高度に利用され、それゆえ施設不足に悩まされていた恒温室（室内の温度を厳密に制御できる飼育実験室）は5室から8室に増え、そのうち2室は遺伝子組み換え生物が飼育できる施設になっています。このように、旧施設では不可能であった、遺伝子組み換え実験に対応できるようになったことで、最先端のバイオテクノロジー技術を用いた研究の推進も可能になりました。また、感染魚実験室では温度を調節した飼育水の供給ができるため、サケマス類など厳密な水温制御が必要な魚類を用いた感染実験が可能になりました。さらに、感染魚実験室からの排水は完全に殺菌できるように設計されており、日本に未侵入の病原体を取り扱うことができるようになりました。

このように様々な実験を効率的に進めることができるよう工夫された新施設では、旧施設を利用していなかった研究室の利用も進み、利用者数が大きく増えました。本施設を用いた新しい教育研究の展開は、将来すばらしい成果を生み出すことでしょう。



感染実験室の見学

## 会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING

**桑原 浩一 氏 (平20博生命)  
平成22年度水産学技術賞受賞**

今野久仁彦 (昭49食)

桑原浩一氏(平20博生命)は「クエン酸ナトリウムの多機能を応用したスルメイカからの新規ねり製品製造技術の開発」という画期的な技術開発が評価され、平成22年度水産学技術賞を受賞されました。

氏は長崎県総合水産試験場主任研究員をされながら、イカ筋肉の利用加工を研究する目的で、社会人入学で本学院博士後期課程に入学され、平20年に博士号を取得しております。

練り製品は魚肉タンパク質の特性を利用した加工食品で、本来は地方で漁獲される魚を利用して製造する地方色の強い食品であったが、1960年にスケトウダラから冷凍すり身が開発されると、原材料はほとんどがこれにとって代わられるようになった。このような状況において、地方の特色を出した製品を作ろうという試みが全国的に継続的になされてきた。イカ肉を使い、イカの美味しさを残した製品を作ろうとする試みもその一つである。

独特な「かまぼこ」の弾力を得るために、生理的な条件で纖維構造を持っている筋肉タンパク質、ミオシン、を2.5-3%の食塩を加え溶解し、均一に分散させることが必須となる。ミオシン分子は細長い構造をしているので、適当な温度で加熱すると、ミオシン分子は加熱凝集しネットワークを形成し、弾力が形成される。ところが、イカ肉にはエンド型の内在性メタロプロテアーゼが存在し、イカ肉の保存中ではさほど問題にならないが、食塩を添加し、ミオシンを溶解して肉糊にした後に加熱をすると、このプロテアーゼが活性化され、ミオシンを分解する。そのため肉糊を加熱しても弾性を失ったボソボソとした触感の製品となる。それゆえ、経験的にイカ肉からはすぐれた練り製品は製造されないというのが常識であった。

桑原氏はこの困難に正面から立ち向かい、イカ肉のプロテアーゼを抑制する方策を探索し、最終的に、食



品添加物として許可されているクエン酸Naの金属イオンを補足する機能に行き着いた。この化合物はイカ肉加熱中のミオシン分解を完全に阻害し、その結果、高い弾力性を持つイカの練り製品の製造が可能となった。この化合物は食品添加物として許可され、利用制限もない、安全性の実験することなしに使用できる。この研究過程でこの化合物が低濃度でイカ肉を溶解させることを見出した。その結果、これを加えると食塩を使わない肉糊を作ることができ、練り製品製造では必須といわれていた食塩を排除した、塩辛くない練り製品が製造できることを示した。ここでは、イカの美味しさが失われる原因であるイカ肉を洗浄する工程を含まず、イカ肉の美味しさを保持したまま、食塩を含まない練り製品を製造するという技術である。これらの発見、技術の確立はわが国におけるイカ類の利用加工産業のみならず練り製品製造分野における意義は非常に大きく、今後この技術の展開が期待される。

りましたことも加えてご報告しておきます。

北海道立工業技術センターは、昭和61年に北海道が工業技術の高度化を促進するために函館地域の中核試験研究機関として開設し、公益財団法人函館地域産業振興財団がその管理運営を行っている「公設民営」の試験研究機関です。現在の研究員は20名と少数ですが、工業材料から食品加工まで幅広い技術分野を担当し、財団法人という民間の立場を生かした、きめ細かい技術支援を地元産業界に提供しています。

吉岡君の受賞題目は「スルメイカの高鮮度保持技術・流通技術の開発」です。函館はスルメイカの回遊ルートである津軽海峡に面しており、新鮮なスルメイカとイカ釣り漁船の漁火は、夏から秋にかけての函館の風物詩であるとともに、地域の重要な水産資源です。高鮮度のイカからつくられた刺身の透明さと特有の食感は高い嗜好性を持ちますが、イカの水揚げ後、短時間のうちに失われてしまうことは、皆様ご存じのことと思います。しかしながら、その鮮度を長時間保つことが技術的に困難なため、遠距離輸送が難しく、函館で水揚げされたイカの流通は函館近郊に制限されており、高鮮度スルメイカの生産・流通技術は、生産者、流通関係者から強く開発が望まれていました。

吉岡君は、スルメイカの鮮度を生かした高付加価値利用をはかることを目的として、生鮮スルメイカを保管した際の鮮度の変化を食品学、生化学的の両面から明らかにし、鮮度保持技術の開発に取り組み、致死条件や保管温度、酸素環境などの調節により、出荷24~36時間後においても特徴的な身の透明感や食感を良い状態で保持する技術を開発しました。この知見を産業界に普及させ、軟体類では初めてのイカの活締め手法の開発などを通じて、新鮮さを売り物にした新しい包装形態のスルメイカが開発され、平成17年より函館から首都圏に出荷されており、産業的にも重要な成果となっています。

このような受賞は北水同窓会にとってたいへん喜ばしいことだと思います。吉岡君に続く北水同窓生が我が国の水産に関わる研究において産業界の牽引となるような業績を残すことを切に希望とともに、北水同窓会のさらなる発展を祈念いたします。

CONGRATULATIONS ON WINNING

**宮下 祥子 氏 (平6化)  
第20回 道銀芸術文化奨励賞受賞**

板橋 豊 (昭50化)



クラシックギタリストとして世界に知られる宮下祥子(みやした さちこ)氏は、この度、道銀芸術文化奨励賞を受賞されました。この賞は、北海道内で優れた芸術活動を行う若手の芸術家を顕彰するもの(音楽部門、美術部門 各1名)、ギターでは初の受賞になりました。贈呈式は2010年3月14日、北海道銀行本店ビルで行われました。受賞を記念して、同年5月11日に札幌コンサートホールKitaraで開かれた「北海道銀行創立60周年記念 第25回 道銀ライラックコンサート」で札幌交響楽団と「アランフェス協奏曲」を演奏されました。心を打つギターの音色に大ホールを埋め尽くした約2,000名の聴衆からは拍手が鳴り止みませんでした。

宮下氏は旧魚油化学講座の出身で、卒業論文ではEPAやDHAを含む油脂成分の抗菌活性について研究され、その成果は研究室の財産として今に引き継がれています。ギターは7歳から始められ、優れた演奏が評価されて、これまで数々の賞を授与されていますが(以下に主なものを記します)、プロとしての演奏活動は卒業後に本格化させました。現在は札幌を拠点に国内外での演奏活動を活発に展開しています。北海道から沖縄まで全国各地で開催される演奏会は好評を博しています。海外でのリサイタルも多く、これまでスペイン、ドイツなどヨーロッパや南米など20都市にも及びます。多忙な演奏活動に加えて、現在は札幌大谷大学音楽学部非常勤講師として、またご自身が主宰するギター教室で後進の指導にもあたっています。

# 追悼寄稿

CONGRATULATIONS ON WINNING

これまで、3枚のCDをリリースし、「PASSION」と「Virtuoso」は共にクラシックCDのレビューで定評のある「レコード芸術」誌で特選盤の栄誉に輝き、また「ギフト」は準特選盤に選ばれています。「確かな技術に支えられた力強い演奏は、聴いた人ならば誰でもが絶賛する魅力である」(Guitardream No.11, 2008)と評されるように、その演奏は高く評価されています。音大ではなく、北大水産学部で過ごした4年間が現在の演奏活動の糧になっていると聞いています。「自分にしかできない道を模索しています」という宮下さんの今後の益々のご活躍を願っています。同窓の皆さんには、全国各地で開催される「宮下祥子リサイタル」に是非足を運んでみて下さい。宮下祥子さんとクラシックギターの魅力にとりつかれることでしょう。演奏会の日程等は「宮下祥子」のHP、公式ブログをご覧下さい。

## 《宮下祥子氏略歴》

1991年クラシカルギターコンクール優勝。2001年、国際ギター講習会(静岡)においてイタリアの巨匠オスカーニ・ギアから最優秀生に選ばれる。2002年アンドレス・セゴビア国際ギターコンクール(スペイン)で第2位入賞。2003年イタリア・キジアナ音楽院のサマーセミナーに参加し「Diploma di Merito(最優秀ディプロマ)」を授与される。2006年、世界の女流ギタリストの祭典「ギターと女性」フェスティバルに日本人として初めて招聘される。2008年、世界P.E.N.フォーラムにおいて井上ひさし氏・新作朗読劇の音楽を井上氏の指名により演奏、以後、新国立劇場における再演が続いている。同年、世界的なギタリストのパヴェル・シュタイドル氏とコンサートツアーや録音を行う。日本全国での演奏活動の他、これまで世界の20都市以上で演奏。2010年、イタリア・トリノ国際ギターフェスティバルに出演。2011年4月、第20回道銀芸術文化奨励賞を受賞し、道銀60周年・札響50周年記念「ライラックコンサート」で札幌交響楽団とアランフェス協奏曲を共演(梅田俊明・指揮)。2012年は、アメリカ公演(NY州)、タイ国際ギターフェスティバルへの出演が決まっている。札幌市民芸術祭大賞を最年少受賞、同奨励賞を3度受賞。CD『PASSION』、『Virtuoso』は共に「レコード芸術」誌で特選盤に、最新盤『ギフト』は準特選盤に選ばれ好評を得る。ギターを渋谷忠三、福田進一、パヴェル・シュタイドル各氏に、音楽理論を木村雅信、蛇子元各氏に師事。札幌大谷大学音楽学部非常勤講師。札幌出身。



**鉄村光太郎氏(平3ギ)、関秀司氏(昭57化)、  
宮下和士氏(平3ギ)、高橋是太郎氏(昭50食)  
平成23年度 日本弁理士会会長奨励賞受賞  
丸山 英男(平元化)**

鉄村光太郎(平3ギ)、高橋是太郎(昭50食)、関秀司(昭57化)、宮下和士(平3ギ)の4氏が平成23年11月7日に、社団法人発明協会総裁、常陸宮殿下ご夫妻ご来臨のもと、日本弁理士会会長奨励賞を受賞されました。この賞は社団法人・発明協会が行う地方発明表彰の中の一つであり、4氏が特許取得に関わった「生物分解性素材を用いたデジタルXBTセンサ(特許第3936386号)」に対して贈られたものです。また実施機関である北海道大学は、これによって実施功績賞を授与されました。デジタルXBT(expendable Bathymeter-Thermograph; 投下式水温水深計)は航行中の船舶から水深ごとの海水温を測定する「使い捨て」の海洋センサーで、内部のMPUが水深と水温を直接計測し、高精度の海水温プロファイルを簡単かつ短時間に出力することから、高精度ソナーのリアルタイム校正や調査時間の短縮を可能にし、センサーと測定機能の追加が容易で、多様化する海洋計測ニーズに迅速に対応することが出来る利点を有していますが、既存のXBTには錐として鉛、また、筐体として化学合成樹脂が使用されているため、海中に投棄したセンサーによる海洋汚染が危惧されていました。受賞された特許では海洋環境汚染を軽減するため、筐体としてホタテ貝殻の特性を生かした生分解性モルタル素材、また、電子基板の耐圧防水に用いるゲル状素材を開発し、深海環境で電子基板を安定動作させる耐圧・防水技術を確立したもので、これらの素材は海洋由来素材であることから、使用済みのXBTは一定期間で溶解・捕食され、海底周辺の生物環境に悪影響を与えないという画期的な

技術です。今後多くの我々の同窓が産学共同で即戦力となるような素晴らしい技術を確立し、評価され、表彰されることを望みます。

## 辻野 勇先生(名誉会員)の急逝を悼む

矢部 和夫(昭37セ)



平成23年10月26日、元北海道大学水産学部長 辻野 勇先生は奥様とお嬢様に見守られながら、その88年間の生涯を閉じられました。

先生との別れを惜しむ卒業生、並びに先生

の幅広い交友関係者が道内はもとより東京、大阪など各地から集い、「辻野 勇先生とのお別れ会」が12月10日に函館市大手町の函館国際ホテルで開催されました。

お別れの式では、函館市長の弔辞が述べられた(代読)後、北海道教育大学名誉教授 伊藤裕三様、田辺製薬(株)元特約部マネージャー 田中 久様、三菱ガス化学(株)脱酸素剤事業部長 久保田千春様により、お別れのことばとともに生前の先生との懐かしい思い出話が述べられました。特に、久保田氏はタイ国から帰国間もない非常に忙しい中、駆けつけてくださいました。

ここで、先生のご経歴と研究の一部を紹介して先生の教えと研究者魂を偲びたいと思います。

先生は1923年1月1日(大正12年)北海道札幌市にて出生、1945年9月北海道帝国大学農学部水産学科を卒業、同時に財團法人日東化学研究所に勤務

後、1949年3月農学部副手に採用されました。翌年の1950年12月に助手に昇任、1953年4月同大学水産学部へ配置換えとなり、1955年3月講師に昇任されました。1962年3月農学博士(北海道大学)を取得後、1968年2月助教授に、1979年10月教授に昇任され、1986年停年退官されました。この間、1983年4月から1985年4月まで水産学部長、大学院水産学研究科長、北海道大学評議員を務められました。

大学を退官後、その年の6月から4年間、財團法人テクノボリス技術振興協会副理事長ならびに北海道立技術センター長に就任され、道南地域の技術の向上と人材の育成に努められました。1987年11月に「海藻類の化学分析と地域の研究開発」で函館市文化賞を受賞されております。

大学における研究面では1965年3月「アルギン酸の酵素分解物に関する研究」で、日本水産学会賞を受賞されました。アルギン酸の研究が一段落した後、海藻のスクレオチド糖の分離の実験を始められましたが、間もなく、紅藻類の水抽出物のみが近紫外部に著しく強い吸収を示すことに気付き、この化合物の精製・単離に取り掛かりました。当時は助教授に昇任され、研究にも油の載ってきた時期でしたので、大量の紅藻(約1トン強)を処理し、徹夜で精製を繰り返し、1年半後についに約3gの結晶を得ることが出来ました。化学構造の解析・決定は、当時北海道大学免疫研究所におられた関川 熊博士の多大なるご協力のもとになされました。紅藻エゾツノマタ(*Chondrus yendoi*)から得た波長320 nmに吸収極大を有する化合物については、*Tetrahedron Letters*, Vol.16 pp.1401-1402 (1978)に報告されました。

食品工場・厨房内の自主検査のお手伝いをします。

## HACCP・ISO導入指導及び検証・評価・改善指導

★食品の微生物検査 ★施設類・道具・器具類の拭き取り検査 ★食品の賞味期限の設定  
★食品・副資材・調理室の微生物の除殺菌テスト ★衛生関係資材の販売  
★各温度帯における保存テスト ★その他衛生指導、社員教育などご相談をお受けします。

株式会社 キュー・アンド・シー

代表取締役 奥野 和弘 昭和42年製造

松原 伸二 昭和62年化学 久保 雅俊 平成12年資源 阿部いく子 平成17年資源 中川 恵介 平成23年生命 笹原 麻未 平成23年生命

分析室 〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7 TEL:011-786-8300 FAX:011-786-8266  
URL:<http://www.qandc-lab.com/> E-mail:haccp@qandc-lab.com

その1カ月後に、名古屋大学の天然有機化合物研究では大御所の平田義正教授のグループは、腔腸動物 (*Palythoa tuberculosa*) より得た波長320nmに吸収極大を有する化合物について、同じく *Tetrahedron Letters*, Vol.26 pp.229–230 (1978) に報告しました。この化合物を“*palythine*”と命名することについては、辻野先生と平田義正教授との間で話し合いがなされたようです。このように研究に対する執念と妥協を許さない研究者魂が、水産学部に受け継がれているのを見せつけられ、心が喜びで躍るのを感じました。

1979年に教授に昇任されてからも休むことなく研究を続けられ、紅藻エゾツノマタ (*Chondrus yendo*) から波長333–334 nmに吸収極大を有する化合物の結晶化と化学構造決定に成功し、*Botanica Marina*, Vol. XXII pp.65–68 (1980) に報告しました。その名前は、海藻の採集地である函館市志海苔町の名前にちなみ、“*shinorine*”と命名されました。

1983年からは水産学部長等を務められ、その激励の中、大学院修士課程の久保田千春氏と紅藻ダルス (*Palmaria palmate*) から紫外部波長357 nmに吸収極大を有する化合物の結晶化に成功し、海藻の採集地臼尻水産研究所の所在地の名にちなみ、“*usujirene*”と命名し、*Jap. J. Phycol. (Sorui)*, 34, 185–188 September (1986) に報告しております。これらの近紫外部吸収化合物 “*palythine*, *shinorine* & *usujirene*” と言う化合物名は名付け親が *Isami Tsujino* という名前で永久に残ることでしょう。

先生が始められた近紫外部吸収物化合物の存在は、その後、紅藻のほか、腔腸動物、サンゴ、夜光虫、プランクトン、真菌等からも報告され、一連の *Mycosporine-like amino acids (MAAs)* の研究として発展し、日本のみならず、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ドイツ、その他の国の研究者によって研究が続けられています。オーストラリア国立海洋研究所 (AIMS) の Walt Dunlap 博士らは *Great Barrier Reef* で採取したナマコ (*Thelenota ananas*) の中腸腺から分離したバクテリアを使用して、*algal-MMAAs* (*shinorine or porphyra-334*) を *Mycosporine-glycine* (中程度の抗酸化剤), *4-deoxy gadusol* (強力な抗酸化剤) に生物変換させ、食品の酸化防

止、紫外線による皮膚の老化防止、*healthcare products*への応用の可能性など盛んに研究されています。

先生のご逝去にたいし、Walt Dunlap博士から“*I am sorry to hear that Professor Tsujino had passed away.*”と message が届きました。先生にはもう少し、せめてもう1年でもよいから長く生きていてほしかったと思っています。

先生の教えと研究者としての魂の入った信念に尊敬と感謝の念を捧げ、ここに謹んでご冥福をお祈り致します。 合掌。

## 正置富太郎先生(特別会員)追悼記

藤田大介(昭56ゾ)・馬場将輔(昭57修増)



鹿児島大学水産学部の野呂忠秀学部長(昭51年修増)からの連絡で、正置(まさき)富太郎先生がデンマークのコペンハーゲンで平成23年7月10日にお亡くなりになつたことを知りました。

享年87歳でした。

正置先生は大正12年9月15日に釧路市でお生まれになり、北海道帝国大学予科を経て同大学農学部水産学科に入学、時田郁教授のもとで藻類学を学びました。昭和22年農学部を卒業した後も時田教授の助手として研究室に残りましたが、農学部水産学科の改組にともなって、昭和28年からは函館の北海道大学水産学部に移り、昭和30年に講師、34年に助教授、42年に教授となり昭和62年に定年で退職されるまでの40年間、北大水産学部水産植物学講座で海藻の研究と教育にあたりました。ご退職後は昭和62年に北大名誉教授、平成12年には勲三等旭日中勳章を受章なさいました。

先生は藻類分類学の中でも特に分類が難しく敬遠されていた紅藻サンゴモ類がご専門で、日本産種

の分類学的研究に精力的に取り組まれたほか、地理的分布や生理生態、「磯焼け」との関連でも多くの業績を残されました。北海道各地のフィールドへは、先生自らが Melobesia (サンゴモ類の属名の一つ) と銘記された愛車を運転し、精力的な調査を行いました。国外の研究機関との交換用の海藻標本作りに熱心に取り組まれ、そのお手伝いをしたことが思い出されます。

筆者のひとり馬場は、博士論文「南日本産無節サンゴモの系統分類学的研究」(昭和62年)の指導を賜り、就職後も多々ご指導を頂きました。特に、「新日本海藻誌」(平成10年刊)でサンゴモ目の章を執筆した際には、原稿の準備段階から数々の疑問点に丁寧に対応され、海外研究者への紹介の労も取つて下さいました。退職後もこの分野の情報を丹念に収集整理されていたのには頭が下がる想いでいた。先生は、平成9年に日本を離れ、ご子息の正置英一郎氏ご夫妻とお孫さんが在住されるコペンハーゲンに永住されました。平成16年9月にはご自宅を訪問する機会に恵まれ、歴史ある公園を散歩しながら、いろいろなお話を伺つたものです。

藤田は、卒論からサンゴモの磯焼け維持機構に関する博士論文(昭和61年)まで指導を賜りました。先生は大変温厚なお人柄で、私が教授室のソファーで寝泊まりし、下に隠していた毛布が露見した時も「bed代わりは not good idea です」と書置きを残さ

れるという具合です。お陰様で、糸余屈折しながらも、「磯焼け対策ガイドライン」(水産庁、平成19年)などをまとめることができました。最後にお話したのは、平成16年6月、かつての留学生ハーゲン教授(ノルウェー)宅からの国際電話でしたが、大学に移ったばかりの私を激励して下さいました。

正置先生は、サンゴモの修士・博士だけでも8人(小坂(43ゾ)、能登谷(46ゾ)、村田(49修増)、野呂(上記)、宮田(60博増)、スリマノーパス(62博増)、馬場、藤田)を指導され、「正置サンゴモ八犬伝」として語り継がれています。その末席に連なり、最後までお世話になりましたが放しだった2名が追悼文の依頼を拝受しました。

正置先生は欧州各地での留学経験をもち、英語が堪能であったことから、多くの外国人研究者と親交があり、国際藻類学会では Tom の愛称で呼ばれていました。

先生は、コペンハーゲンの公園墓地に埋葬されています。御令室弘子様はコペンハーゲンにそのままお住まいです。国際派の正置家らしく、ご長男の英一郎様はデンマーク、ご長女清美様は米国でそれぞれ国際結婚をなさつておいでです。

ここに生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

地域の活性化のために全身全霊の情熱で取り組みます。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役 中山一郎

本 社 〒040-0075 函館市万代町20番10号  
PHONE (0138) 40-6275 · FAX40-3939  
釧路営業所 〒084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3  
PHONE (0154) 52-4101 · FAX52-4103  
<http://hakonaka.jp>

## 寄稿

## 記念すべき第10回北大寮歌祭と大盛況だった若鮎会

表 芳弘（昭52ギ）

水産学部第3代応援団村越孝（昭53ギ）団長の司会進行で始まった第10回の北大寮歌祭は節目の開催ということもあり、大盛会のうちに終えることができました。

寮歌祭の実施にあたっては水産学部OBの村越君（昭53ギ）の他、黒田君（昭53ギ）、小林君（昭55ゾ）、岩井君（昭57ギ）、橋本君（昭59ギ）、犬飼君（平8ギ）らが裏方（実行委員）として支えていただいています。

本当にありがたいことで、とても感謝しています。

進行するなかで、現役水産応援団による演舞があり、その後水産放浪歌がガナられるのですが、どうしてどうして北水ここにあり、寮歌祭はまるで我らのためにあるのではと思われるほどの勢いを持ちながら第一部が締めくられるのは、圧巻がありました。

北水関係で北海道からは現役応援団員の他、私と北水同窓会特別会員の鶴沼ワカさんの参加であったようですが、最後の締めとして、参加者全員で肩を組む「都ぞ弥生」までがとても短く感じられました。

平成24年には還暦を迎える私にとって、青春を謳歌した学生時代を思い出すためのまたないイベントで、忘れることのできない思い出となりました。満足・満足・大満足！

寮歌祭を終えてから「若鮎会」（昭和52年度より平成12年度まで水産学部医務室に勤務された、鶴沼さんにお世話になった仲間によって結成された）が用

意されていました。

寮歌祭には参加できなくとも是非参加したいという仲間も集まり、蒲田駅近くの中華居酒屋？は予想を上回る盛況ぶりでした。

会を仕切っていただいた飯塚君（昭56ギ）、鈴木一司君（昭57食）や写真を撮ってくれた安田君（昭56食）等にも大変感謝しています。

特設専攻科の時から大変お世話になっている鶴沼さんから、あなたは長兄だと言われていますが、大した面倒もみないし、聞いたことはあっても見たこともない若い弟がわんさとおり、いつもとっても戸惑うばかりです。

さらに、これが一握りだというですから、水産学部の学生をどれだけ支えてこられたのかが改めて感じさせられ、多くの仲間とともに楽しく過ごすことができました。

翌日には品川歴史館や大森貝塚、品川水族館などを熊谷君（昭56ギ）、飯塚君にじっくりと案内していただきました。

以上、10月7日から9日までの函館発着の2泊3日の旅のほんの一コマでした。

第9回寮歌祭で苦労して参加された山本君（平2ギ）には函館空港までの送迎でお世話になりました。

～いざ吾友よ熟睡せむ、あすは人生の旅なれば～

第11回寮歌祭も、東京大田区産業プラザで平成24年10月27日に開催予定です。

クラス会  
報告

## 第16回 臥洋会始末

(昭和36・水産学部卒同期会)

## 支笏湖の夜

佐藤 立治（昭36エ）

平成23年10月30日、北海道は穏やかな天候であった。

3月11日の「東日本大震災」については、4月7日被災された同窓会員への支援呼びかけが本部から発せられたが、この春は真に心を重くした。

夏過ぎから諸準備のピッチも上がって、臥洋会も回を重ねて第16回目、今回は、「卒後50年の節目の集い」である。第1回は、卒後20年目（昭和56年）の函館開催であり、以後、東京、札幌、函館などでの開催が多い。出席者は毎回ほぼ50名程度で、先の親潮（296）に、「24年卒臥牛会」が閉会の便りをN先輩が寄せられていたが、36年卒組のマグマは、いま少し高温で、あと十数年は賑やかな気配である。

今回の開催は、支笏洞爺国立公園の湖畔の宿、M温泉旅館であった。

16時受付始まり、18時記念写真、黙祷（布目、穴吹、稻葉3氏、合掌）、監事挨拶、宴会、近況報告、寮歌齊唱、閉会挨拶、二次会、三次会（学科別）。

何時の同窓会であろうと、開催地がどこであろうと、卒業年次が何年度であろうと、この流れは変わるもの。

臥洋会諸氏の大半は73歳プラスである。

あけて、10月31日10時、別れとなる。

醒めよ迷いの夢醒めよ、醒めよ迷いの夢醒めよ

明治38年色部米作君作詞のストームの歌が帰路のバス内に響く。

いまこのとき、74歳に薦進する臥洋会メンバーの白頭に去来するものはなんぞ、それは無情、移ろいゆく人生か。

唐詩「白頭を悲しむ翁に代わる」

年年歳歳 花 相似たり

歳歳年年 人 同じからず

（七言古詩）

完

## 北水同窓会京滋支部総会報告

小林 正昌（昭39ゾ）

秋色ようやく深まってまいりました。枯れ葉も舞い、朝夕ひときわ冷え込む今日この頃です。

さて恒例の支部総会を10月22日（土）に開催いたしました。

日 時：平成23年10月22日（土）18時30分～20時

場 所：京都京阪ホテル内レストラン『オーク』

出席者：三輪二郎（昭30工） 本橋 勉（昭34ギ）

山田昌次（昭36工） 吉田宣雄（昭38ギ）

近藤忠裕（昭54化） 若林 博（昭54ゾ）

澤田宣雄（昭60院） 高木正夫（昭62ギ）

大寄良孝（平元食） 小林正昌（昭39ゾ）

以上10名（敬称略）

## 議 事

\*22年度一般経過報告

\*22年度会計報告 及び 監査報告

高木正夫監査役より監査報告があり承認されました。

\*23年度事業計画（案）、予算（案）

共に承認されました。

\*23年度役員、幹事、監査役改選の件

再度全員留任と決定

支部長：小林正昌（昭39ゾ）

幹 事：澤田宣雄（昭60院） 滋賀地区

高木正夫（昭62ギ） 京都山陰地区

## クラス会 報告

\*その他

- ・役員改選について  
マンネリを避けるためにも2~3年中に自薦、他薦を依頼
- ・同窓会出席者数について  
近年10~15名程度。メッセンはほぼ皆無に近いが、以後あまり人数にはこだわらず、企業単位、同年単位etcでの勧誘でということにした。

### 懇親会

三輪先輩(昭30工)の乾杯の音頭で暫しの歓談。平成23年は地球最後の日の如き災害があり(地震、津波、原発放射能、ゲリラ豪雨、水害、山崩れ、がけ崩れなど)現在では防ぎようがないが、各自注意怠りなく等と話し合った。『都ぞ弥生』『逍遙歌』『放浪歌』を大合唱し来年も元気での再会を誓い、散会した。

以上

### 北水同窓会京滋支部会

支部長：小林正昌(昭39ゾ)  
幹事：澤田宣雄(昭60院)  
高木正夫(昭62ギ)



前列右より：近藤(昭54化)、小林(昭39ゾ)  
山田(昭36エ)、三輪(昭30エ)  
吉田(昭38ギ)、本橋(昭34ギ)  
若林(昭54ゾ)

後列右より：高木(昭62ギ)、澤田(昭60院)  
大寄(平元食)

## 北水昭和43年卒業同期会

清水八洲男(昭43エ)

平成23年10月10日静岡県浜松市の館山寺温泉において、昭和43年卒業の同期会を開催しました。静岡県となると、出席者が少ないので心配していましたが、女性2名を含む、北は旭川市から南は鳥取市まで35名の同期生が集り、開会1時間前には全員集合と言う‘幹事喜ばせ’のスタートでした。

議事進行役は花田博さん(ゾ)が担当し、物故者黙祷では、3年間で9名もの仲間を失い、一同心から冥福を祈りました。

次回の同期会の幹事代表に中山豊光さん(ギ)を選出し、中山さんも快く受けってくれました。

宴会は山口皓さん(エ)が司会進行役で、卒業以来40年振りに同期会に出席した後藤純弘さん(ゾ)の学生時代を呼び起す「オス」で始まる乾杯の音頭、吉川圭一さん(エ)の「都ぞ弥生」の口上と歌で一同がその上手さに感動し、中メは横堀一男さん(ギ)の出席者全員に生きる勇気と元気を奮い立てるメッセージを添えた‘三々七拍子’で大いに宴は盛り上がりました。

幹事代表の挨拶としては、‘都ぞ弥生’が誕生して、来年は100年を迎えること。この寮歌を作詞した横山芳介氏は静岡県庁に勤め、45歳の若さで亡くなつたが、県庁史に残る立派な業績を残されたこと、そして、‘都ぞ弥生’の歌碑が静岡市の長源院に1958年に建立されていることなど、‘都ぞ弥生’と静岡県は縁が深いことを披露しました。

近況報告もあり、山口さんの話しやすい雰囲気にのせられて、持ち時間をフルに使い、聴く、聴かないは関係なく、皆さん大いに熱弁を振りました。2次会はこの世の情勢を反映した話題になり、東日本大震災による水産業の行方、日本の経済、介護や年金等と多岐に亘り、会話の合間に、流れるてくるカラオケの曲には、函館時代の「金が無くても楽しかった日々」を思い出させるものが多かった。

震災の話の最中に、北晨寮の私の部屋の壁に貼られた「百河千流併せて呑めど海は純化の力を持て

り」と書かれた模造紙を思い浮かべ、「海は悲鳴を上げている」と思いながら、ダーウィンの言った「自然是目的なしには動かない」と言う言葉の怖さを感じられずにはいられませんでした。

再会すると、一瞬にして学生時代に戻るが、時間が経つにつれて、それぞれ卒業後の人生経験を積み上げてきた分だけ味が出てきて、会話も楽しく、教えられる事も多く、素晴らしい一時を共有できて本当に幸せでした。

翌日は浜松城を見学したり、浜名湖周辺を探索したり、名物の‘うなぎ’を食べたりして、お互いに再会を約し、それぞれの帰路に着きました。次回の同期会にも元気に会えることを楽しみにしております。

### 幹事一同

#### 出席者：

(化学)坂本 周夫・眞田 篤弘  
嶋崎 岩男・富久 尾肇・町野 剛  
(増殖)大原 横子・後藤 純弘・駒崎 洋介  
田畠 和夫・花田 博・三木 智憲  
(食品)高木 和夫・三上 篤・田島 研一  
中井 俊雄・水内 規子・横田 建彦  
(漁業)小田島俊一・齊藤 勝・齊藤 嘉明  
中山 豊光・松井 貞美・水島 幸一  
水戸 孝夫・横堀 一男  
(遠漁)岩崎 薫・大野 孝・河原 武則  
菊川 哲行・小辻 英二・清水八洲男  
深井 尚武・藤井 真一・山口 皓  
吉川 圭一



## 北水同窓会広島支部会'11報告

井関 和夫(昭46ゾ)

昨年度同様に、今年度も下記の会場で広島支部会を開催しました。今年は、出張や会議等と重なり出席できなかった方がおられて出席者は5名でしたが、支部会自体は、森岡支部長の挨拶、年次活動報告などが肃々と行われた後は、乾杯と料理、様々な話題で急速に盛り上がり賑やかな楽しい一宵となりました。

その盛り上がりに大いに貢献したのが、復建調査設計株東京支社に勤務されている羽原浩史氏による「サラリーマンの気ままな淡彩画」と題するプレゼンテーションでした。羽原氏の臨場感のあるナレーションとともに、順次、懐かしい北海道の各地の風景、街並み、建物、路面電車、草木花鳥、そして函館の水産学部や、最近の東京および周辺の風景を見事に描写した淡彩画がスクリーンに映し出され、一同感心して見入ることとなりました。

次年度も同時期に開催すること、幹事役、プレゼンの話題「マリンスノー」(井関担当)などを決めて、閉会の乾杯となりました。

日 時：平成23年10月15日(土)午後4時～7時  
会 場：ビヤダイニング広島ライオン



参加者：後列左から  
永井達樹(昭48修漁)・森岡泰啓(昭38ゾ)  
前列左から  
羽原 浩史(昭55化)・井関和夫(昭46ゾ)・  
中山奈津子(平15海)

## 「おしょろ丸を秋田に迎える」

柴田 理 (昭55ギ)

2011年6月18日に日本一周航海中の「おしょろ丸」が秋田港に入るという連絡が入った。多分予定の10時に港口の灯台を真横に見て入港するのだろうと思って岸壁に行くと、おしょろはもう目の前でまさに接岸しようとしているところ。実習船を迎えるのは、20年くらい前に、今は教授の木村暢夫君が乗ってきた北星丸以来のこと。私が'78年に航海実習で東シナ海まで行ったおしょろ丸Ⅲ世はとっくに引退しているが、船のイメージは変わっていなかった。

迎えたのは佐々木健(昭35セ)、赤間健太郎(昭41ゾ)、松田恵明(昭41ゾ)、船木律(昭51ギ)の各氏及び柴田の5名。早速サロンに招かれ、高木船長を表敬訪問。学生の航海ワッチが必修ではなくなったと聞いて時代の移り変わりを思った。ゴム手に四角い石を持って甲板をズリズリとやる“ストーン擦り”もやはや思い出の1コマ。七重浜でのカッター訓練はまだやっているのだろうか。一方で研究機関を横断した共同研究も進んでいるとのことで、限られた資源を有効に活かしていく流れを感じた。

その後お二人の航海士、髭面の星さんとさわやかな大和田さんに船内を案内して頂いた。食堂は複雑そうな研究機器でやや狭く感じたが、テーブル上の焼酎や梅酒は30年程前と同じ。あの頃は紙パックではなくて一升瓶だったかな。

秋田の地酒を差し入れ、カラフトマスの缶詰とトバを頂いて船を後にした。



## 平成23年度 北大水産学部同窓会 in 隠岐

村上 一 (昭56ギ)

平成23年11月5日(土)、島根県隠岐の島町「味乃藏」で同窓会を開きました。

出席者は島根支部から7名、特別参加で神奈川支部から神山茂郎氏を迎えて合計8名でした。この他にも、前田善三郎氏(昭31セ)と青山(足立)佳奈子氏(平12生)が参加予定でしたが残念ながら急用で欠席となりました。

当日、本土からフェリーで2時間半かけて到着する神山氏、菊池氏、勢村氏を11時半に西郷港で出迎え、12時から松長氏の乾杯の音頭で同窓会が始まりました。自己紹介や近況報告など賑やかな会となりました。特に、今回、特別参加された神山氏と隠岐の島在住の松長氏、岩瀧氏、阿山氏との再会は胸を打つものがありました。神山氏と岩瀧氏は同級、松長氏は1年先輩、阿山氏は1年後輩ということもあり、寮生活の話など涙あり笑いありで昨日のことのように語っていました。神山氏の来島は、東京で開催された同窓会の定期総会で菊池氏と出会われたことがきっかけで実現しました。

あっという間の2時間でしたが14時に岩瀧氏の一本締めでお開きとし、フェリーの出発時間の15時10分まで、バー「竹」で二次会をしました。その後、菊池氏と勢村氏はフェリーで本土に帰られましたが、神山氏は隠岐に2泊し観光や更に同窓との交流をしました。

私も久しぶりに同窓会に出席しましたが、同窓は温かいなと感じました。5月に水産高校の練習船で日本半周した時も、東京、函館、小樽、新潟で同窓と会いましたが、同じように同窓の温かさを感じました。今後も心温まる同窓会を大切にしていきたいと思っています。平成24年1月14日には松江市で島根支部総会が計画されています。



後列左より

村上一(昭56ギ)、三橋正孝(昭53ギ)、

菊池良兵(昭22ギ)、勢村均(昭51ゾ)

前列左より

阿山多喜也(昭20ゾ)、松長信男(昭18セ)、

神山茂郎(昭19セ)、岩瀧克己(昭19ギ)

## 北水同窓会函館支部 平成23年度 総会・懇親会

本間 隆之 (平元ギ)

平成23年7月25日(月)、支部会員55名が出席され、市内のホテル函館ロイヤルにて平成23年度北水同窓会函館支部の総会及び懇親会が開催されました。

総会では志賀直信支部長(昭44ゾ)の挨拶と北水同窓会本部の高橋是太郎幹事長(昭50食)の挨拶の後、函館支部の今井義弘幹事長(昭52ギ)の司会進行の下、平成22年度事業報告と決算報告及び平成23年度事業計画と予算、役員が承認されました。なお昨年、諸々の事情で開催が見送られた秋の同窓会(懇親会)について、今年は11月下旬～12月上旬に予定していることも併せて報告されました。

総会の最後にはガゴメ博士で名高い安井 肇教授(昭55ゾ)が「新しい食と健康を支える函館産ガゴメの魅力」と題して講演され、併せて函館マリンバイオ

クラスター UMIの産学官連携事業についても紹介されていました。

引き続いて、寺地潔氏(昭28ゾ)の乾杯の発声で懇親会が始まりました。懇親会では北水オーケストラ17名による演奏がありました。学生代表の丸山泰子さんの曲目紹介を交えつつ「都ぞ弥生」、「ブルータンゴ(アンダーソン作曲)」、「カヴァレリア・ルスティカーナ(マスカーニ作曲)」、「カイザーワルツ(シュトラウス作曲)」が演奏され、出席者全員がゆったりと演奏を楽しみました。諸先輩からアンコールのかけ声がかかり「ラデツキー行進曲(シュトラウス作曲)」で一段と快活な気分になりました。

演奏終了後、北水オーケストラのメンバーにも懇親会の席に加わってもらい、先輩諸氏から歓迎を受けていました。

最後に横山幸奈氏(平23増殖生命)の発声の締めの乾杯の後、出席者全員での記念写真に続き、山本洋一氏(平2ギ)の前口上で「水産放浪歌」を全員で肩組み合わせて歌い、次回の再会を約束し散会となりました。

なお今回、特別会員の鶴沼ワカさんも参加され、多くのOBの方々と旧交を温め、大いに盛り上がっておられました。

### 出席者

寺地 潔(昭28ゾ)	伊藤 一(昭29ギ)
坂本 有隣(昭29エ)	岡川 伸(昭29セ)
羽田野六男(昭31セ)	島崎 健二(昭33エ)
菊地 英樹(昭34エ)	齊藤 勝男(昭34ゾ)
泉 滋(昭37エ)	澤崎 達孝(昭37ゾ)
麦谷 泰雄(昭37ゾ)	早瀬 孝重(昭39エ)
奥野 信博(昭40エ)	米田国三郎(昭40エ)
河原 武則(昭43エ)	高橋 豊美(昭44エ)
志賀 直信(昭44ゾ)	伊藤 悅郎(昭45ギ)
三佐川 稔(昭45ギ)	高橋 玄夫(昭46化)
吉野 威(昭49ギ)	佐々木俊雄(昭49ゾ)
高橋是太郎(昭50食)	中尾 博己(昭51ギ)
平石 智徳(昭51ギ)	今井 義弘(昭52ギ)
我妻 雅夫(昭52ゾ)	高橋 正士(昭53ギ)

クラス会  
報告

備前 悟(昭53化)  
横山 隆久(昭55化)  
種田 貴司(昭56食)  
佐藤 友則(昭57食)  
赤池 章一(昭59ゾ)  
矢本 諭(昭62ギ)  
馬場 勝寿(昭62ゾ)  
渡野邊雅道(平元ギ)  
兵庫 隆俊(平5ギ)

村松 裕史(昭54食)  
安井 肇(昭55ゾ)  
富高 建伯(昭57ギ)  
坂井 伸司(昭58ギ)  
斎藤 弘純(昭62ギ)  
今野 伸(昭62食)  
本間 隆之(平元ギ)  
山本 洋一(平2ギ)  
奈良 正浩(平6ギ)

小園 敏弘(平9ギ)  
宮崎 和貴(平10ゾ)  
岸元 祐二(平15海)  
鋪 明子(平19資)  
横山 幸奈(平23増殖生命)  
鵜沼 ワカ(特別会員)

中野 紀彦(平10ギ)  
金森 誠(平14修環)  
山田 奈央(平16海)



北水同窓会 函館支部 総会・懇親会 2011年7月25日 於：ホテル函館ロイヤル

いま豊かな食生活。  
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

**中水**

青森中央水産株式会社

代表取締役社長 石川栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号  
鮮魚部 TEL 017(738)1281  
冷凍部 TEL 017(738)8221  
塩干部 TEL 017(738)5511  
加工部 TEL 017(738)6581  
企画部 TEL 017(738)1281  
管理部 TEL 017(738)1181

ホームページ <http://www.aochuu.co.jp>

## 北水同窓会函館支部 平成23年度 秋の同窓会の報告

本間 隆之(平元ギ)

平成23年12月2日(金)、支部会員42名が出席され、市内のホテル函館ロイヤルにて平成23年度北水同窓会函館支部の秋の同窓会が開催されました。

会は志賀直信支部長(昭44ゾ)の挨拶と北水同窓会本部の平石智徳副幹事長(昭51ギ)の大学の現況紹介を交えた挨拶の後、道南ラルズGMの今野伸氏(昭62食)による「スーパー業界からみた函館地区の消費展望」の講演が行われました。今野氏は北水同窓会会长の横山清氏(昭35エ)率いるアーツ・グループの紹介に続き、少子高齢化が進む函館での流通業界の現状・展望について「北海道現象」「縮小拡大」等の解説を交えながらお話をくださいました。その後に現役学生を含む出席者からの質問を受けて活発な質疑応答が行われ、約1時間の講演は終了しました。

続いて、平石智徳副幹事長(昭51ギ)の乾杯の発声で宴が始まりました。最初に応援団から、今年10月に東京で開催された第10回北大寮歌祭と、その後に北水OB有志で企画した元北水医務室の鵜沼さんを囲んでの「若鮎会」の紹介が行われ、その後、演武が行われ寮歌「瓔珞みがく」が披露されました。引き続き、昨年の4人から一挙15人にパワーアップしたほくすいプラスが登場し、曲目紹介を交えつつ「都ぞ弥生」「ゲバゲバ90分」「陽はまた昇る」「宇宙戦艦ヤマト」の4曲が演奏され、大いに盛り上がりました。

演奏終了後、応援団とほくすいプラスのメンバーにも宴の席に加わってもらい、先輩諸氏から歓迎を受けて

いました。

メの乾杯は、来年度から函館支部事務局を担当する函館市役所から柳町琢也氏(平4化)の発声で行われ、そのまま出席者全員での恒例の記念写真に続き、応援団の前口上で「水産放浪歌」と「都ぞ弥生」を全員で肩組み合わせて歌い、秋の同窓会はお開きとなりました。

出席者

羽田野六男(昭31セ)	高野 和則(昭32ゾ)
島崎 健二(昭33エ)	山崎 文雄(昭33ゾ)
齊藤 勝男(昭34ゾ)	泉 滋(昭37エ)
河村 章人(昭37ゾ)	早瀬 孝重(昭39エ)
奥野 信博(昭40エ)	木村 昇(昭40セ)
岸本 富男(昭42ギ)	高橋 豊美(昭44エ)
志賀 直信(昭44ゾ)	伊藤 悅郎(昭45ギ)
三佐川 稔(昭45ギ)	高橋 玄夫(昭46化)
吉野 威(昭49ギ)	中尾 博己(昭51ギ)
平石 智徳(昭51ギ)	今井 義弘(昭52ギ)
高橋 正士(昭53ギ)	西川 正一(昭56ギ)
伊東 尚美(昭56化)	大島 六生(昭60化)
木村 司(昭61ギ)	大須賀孝一(昭61ギ)
斎藤 弘純(昭62ギ)	矢本 諭(昭62ギ)
今野 伸(昭62食)	馬場 勝寿(昭62ゾ)
本間 隆之(平元ギ)	宮崎 永司(平元ギ)
渡野邊雅道(平元ギ)	丸山 英男(平元化)
柳町 琢也(平4化)	澤村 正幸(平5ギ)
石田 利夫(平7ギ)	中野 紀彦(平10ギ)
金森 誠(平14修環)	三宅 真人(平16生)
鋪 明子(平19資)	鵜沼 ワカ(特別会員)



北水同窓会 函館支部 秋の同窓会  
2011年12月2日  
於：ホテル函館ロイヤル

## 著作紹介

### 海に沈んだ故郷

北上川河口を襲った巨大津波—避難者的心・科学者の目

掘込 智之 (元県立高校教師。宮城県物理サークル代表、工学博士) (昭46ギ)

掘込 光子 (元小学校教師)

連合出版 A5判 定価1890円(本体1800+税)

#### 被災した波の専門家が解き明かす —

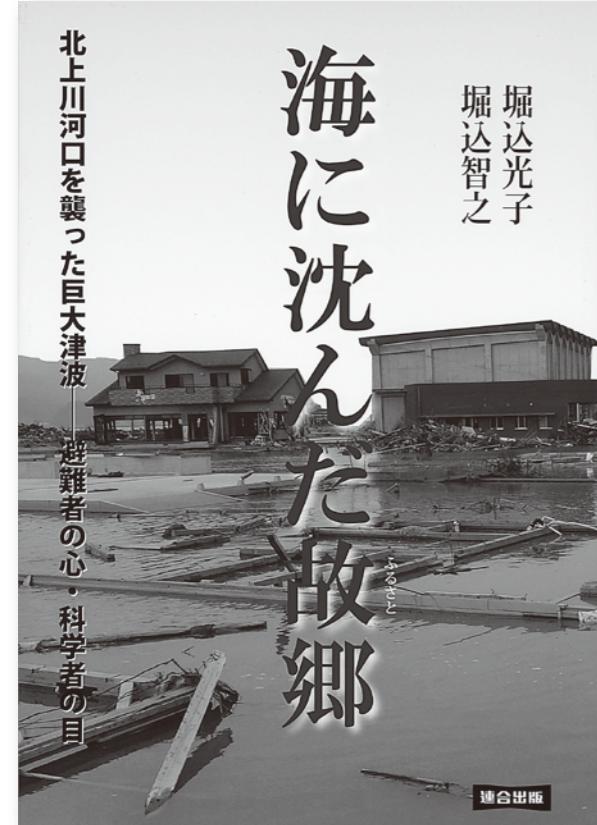
- ・なぜ地震・津波が発生したのか?
- ・なぜ巨大津波となったのか?
- ・なぜ地域によって被害が異なったのか?
- ・避難・野宿・救援・人間の絆 —

被災者的心とは?

東日本大震災の地震・津波によって故郷は壊滅し、1m近い地盤沈下で土地そのものが海に沈んでしまった。もう帰れない故郷。誰を恨むことも誰に賠償請求することもできない。

北上川河口に住んでいた元教師夫妻の地震・津波被災体験。

救出されるまでの自身の体験記録と住民や教え子たちの証言、現地調査、津波実験から、今回の被災の全容を科学的に解明する。



#### 【本書の内容】

口絵(被災の実態、カラー32ページ)

第一部 石巻市長面 私の被災体験

- 三月十一日 大震災当日
- 三月十二日 野宿二日目
- 三月十三日 野宿の山からの脱出
- 三月十四日 救いの手
- 新しい暮らし

第二部 追波湾、北上川河口周辺における  
津波の振る舞い

- 現地調査
- 海溝型巨大地震と津波発生のメカニズム
- 津波の実験
- まとめ

### 農水産資源の有効利用と ゼロエミッション

坂口 守彦・高橋是太郎 (昭50食) 編

恒星社厚生閣 A5判 定価4725円(本体4500+税)

水産・農畜・食品関係者はもちろん

農芸化学、薬学、環境科学に携わる方必見!

循環型社会の構築のための最新情報を提供!

#### 【本書の内容】

- I 序論
- II 農畜産・食品系産業の廃棄物と有効利用
- III 水産廃棄物と有効利用
- IV 危険ものとその利用
- V ゼロエミッションの実施例

近年、「持続可能な発展 (Sustainable Development)」を意識した取り組みが、あらゆる産業で求められています。今回出版されました「農・水産資源の有効利用とゼロエミッション」では、水産業はもとより、農畜産業、食品産業の各分野における未利用物の新たな利用法や利用技術、廃棄物の再利用技術などの最新情報とゼロエミッションの実施例が紹介されています。本書は、水産学、農畜産学、食品工学、環境化学などに携わる皆様にとって必携の書です。

#### 【執筆者】

- |       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 伊東 芳則 | (株)Tuna Advanced Functional Food |
| 内田 基晴 | ㈱水産総合センター瀬戸内海区水産研究所              |
| 梅津 一孝 | 帯広畜産大学                           |
| 岡部 敏弘 | 青森県産業技術センター工業総合研究所               |
| 小田 有二 | 帯広畜産大学                           |
| 坂口 守彦 | 京都大学名誉教授                         |
| 坂本 寿信 | ㈱佐藤渡辺                            |
| 佐田 正蔵 | 根室市役所                            |
| 信田 臣一 | 信田缶詰(株)                          |
| 関 秀司  | 北海道大学                            |
| 高橋是太郎 | 北海道大学                            |
| 長野 章  | 全日本漁港建設協会会長                      |
| 中村 宏  | 東京海洋大学                           |
| 難波 秀博 | 信田缶詰(株)                          |
| 野村 明  | 土佐食(株)                           |
| 福士 晓彦 | 北海道立総合研究機構                       |
| 森岡 克司 | 高知大学                             |
| 薬師堂謙一 | ㈱農研機構中央農業総合研究センター                |
| 藪下 義文 | シダックス(株)                         |
| 横山 芳博 | 福井県立大学                           |



## □会員の異動

大学院水産科学研究院		該当なし
水産学部		平成23年12月11日付けで、坂岡桂一郎 附属練習船 おしょろ丸 助教が、同准教授に昇任

## □学位取得者

### 【平成23年9月取得】

取 得 者	論文題目
塚越 英晴	カジカ種群(小卵型、中卵型および大卵型)の集団構造と進化史

### 【平成23年12月取得】

取 得 者	論文題目
須田 健太	Phylogenetic relationship of the hexanchiform sharks (Squalomorphii:Hexanchiformes) (カグラザメ目魚類の系統学的研究)
野呂 忠勝	ホタテガイの養殖管理に関する遺伝生態学的研究
柴 宇	人為催熟ニホンウナギの卵質改善に関する研究
清水 裕	魚卵アレルゲンタンパク質の構造解析および検知法の開発

## 会員死亡通知

辻野 勇 (名誉会員)	平成23年10月26日	学内連絡にて
正置 富太郎 (特別会員)	平成23年 7月10日	野呂忠秀(昭51修ゾ)様より
池 鐵根 (昭12ヨ)	平成20年	ご家族様より
枠富 久 (昭18セ)	平成23年 5月13日	ご家族様より
酒井 誠一 (昭18ヨ)	平成20年 7月15日	ご家族様より
田辺 三夫 (昭18ヨ)	平成23年 4月24日	ご家族様より
千代川 泰三 (昭19ゾ)	平成23年 3月11日	東日本大震災にて
相澤 寛 (昭20ギ)	平成20年 7月23日	ご家族様より
大野 敬一 (昭20セ)	平成23年 9月 7日	岡村武司(昭53ギ)様より
神子 誠一 (昭20セ)	平成23年10月26日	安田健治(昭56食)様より
苦米地 洋文 (昭22ギ)	平成23年 5月 4日	ご家族様より
村井 正雄 (昭22セ)	平成22年 1月 2日	三上俊之(昭22セ)様より
内藤 信行 (昭22ゾ)	平成23年 4月 7日	ご家族様より
湯田 文平 (昭22ゾ)	平成20年 4月27日	市川 渡(昭22ギ)様より
杉本 昇 (昭23ギ)	平成23年12月 6日	服部晴夫(昭23ギ)様より
新谷 淳治 (昭23セ)	平成23年 6月 5日	ご家族様より
小川 裕章 (昭23ゾ)	平成23年12月	ご家族様より
山崎 正治 (昭24エ)	平成23年 7月	菊池良平(昭22ギ)様より
金瀬 信雄 (昭25ギ)	平成23年10月24日	ご家族様より
本間 芳郎 (昭25ギ)	平成23年 8月27日	岡井幸一(昭25ギ)様より
関澤 獲 (昭25エ)	平成23年 6月 9日	ご家族様より
越田 友司 (昭25セ)	平成23年 1月18日	ご家族様より
佐藤 平康 (昭25ゾ)	平成24年 1月10日	井田 孝(昭25ゾ)様より
鈴木 信夫 (昭26ギ)	平成23年11月18日	ご家族様より
田村 昭吾 (昭26ギ)	平成23年 9月18日	ご家族様より
本間 昭朗 (昭26セ)	平成22年 7月28日	穴澤邦雄(昭26セ)様より
八嶋 千代 視 (昭26セ)	平成23年10月 6日	穴澤邦雄(昭26セ)様より
木村 肇 (昭28ギ)	平成20年 9月18日	竹沢 浩(昭28エ)様より
吉田 栄治 (昭28ギ)	平成23年 3月11日	東日本大震災にて
宮原 信治 (昭28エ)	平成23年 6月10日	ご家族様より
芦田 義悟 (昭29セ)	平成23年 5月 3日	岡川 伸(昭29セ)様より
藤原 祥路 (昭30セ)	平成22年 6月30日	ご家族様より
田口 省三 (昭32エ)	平成23年 9月13日	三幣英男(昭32エ)様より
五島 富三郎 (昭32セ)	平成23年 4月 3日	小泉 守(昭32セ)様より
柴田 元 (昭34ギ)	平成23年 9月 2日	清水富士雄(昭36エ)様より
石垣 昭 (昭34セ)	平成23年11月23日	熊谷克彦(昭43食)様より
武田 收平 (昭42エ)	平成23年 8月 9日	青森県支部様より
金島 守彦 (昭42セ)	平成22年 9月26日	ご家族様より
大友 清志 (昭46ギ)	平成23年 5月13日	ご家族様より
若林 健一 (昭49ゾ)	平成23年11月 2日	村本昭市(昭49ギ)様より
中村 友美 (平6化)	平成21年 5月11日	ご家族様より
白石 淳也 (平18生)	平成23年 5月	雪山事故にて

## 同窓会の会費収入が危機的状況です

個人情報保護法の徹底が進む中、会費収入の減少に歯止めがかかる状態が続いております。そしてついに危機的状況に陥りました。少し前までは少なくとも名簿発行年には、前年よりは幾分改善するというパターンでしたが、その傾向すらも今は失われてしまいました。以前より、入学したばかりの学生に働きかける試み等いろいろ工夫を重ねて参りましたし、若手を惹きつけることによって会員数減少に歯止めをかけるべく大胆に「親潮」を刷新する努力も重ねて参りました。ネット社会に対応すべく、飯田前幹事長の元で新たに電子メールを有効に使う試みもなされております。しかし、あらゆる角度から知恵をしぼったものの、幹事会では会費増収の案がすっかり出尽くした感があり、会員数増強方策につきましては、是非皆様方からアイディアをいただければと存じます。

昨年の一文字漢字は「絆」でした。函館から遠く離れ、あるいは卒業して月日が経った同窓の方々も、この度の義援金を通じて大学との絆を改めて感じた人が少なくないと最近耳に致しました。このことから、同窓間の絆が決して時代とともに弱まったわけではないと考える次第です。特に若い会員の方々から、今の時代に合った同窓会の運営、会費の支払いを促すインセンティブの与え方等の妙案を期待致します。

幹事長 高橋 是太郎

### 《お詫び》

親潮297号での「北水同窓会東日本大震災義援金」のご報告にて今井英明  
(昭25セ)様のお名前が抜けておりましたので謹んでお詫び申し上げます。

### 【親潮投稿規定】

#### 【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛の封書で郵送するか、同窓会メール宛に送付することとする。

#### 【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール(hokusui@hotweb.or.jp)のみ受け付ける。写真は入れられない。

### 【編集後記】

平成23年度「親潮」第2号(通算298号)をお届けいたします。激動の2011年が終わり新たに2012年を迎えました。東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方の水産業を復興、発展させるために、北海道大学大学院水産科学研究院の役割と期待は、これまで以上に大きくなっています。そのような中、水産学部では新しい水槽センターが竣工し、水産業の発展に向けた研究展開が期待されます。

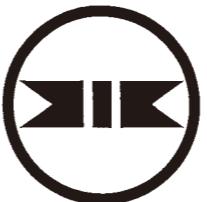
一方、北海道大学では入試制度が大きく変わり、水産学部学生の函館キャンパスへの移行が三年次からとなりました。本号ではこれらの二つの話題を特集として取り上げております。

平成24年度第1号は通算299号目の親潮になります。原稿の締め切りは、平成24年7月10日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(hokusui@hotweb.or.jp)にて受付をしております。また、同窓会誌に対するご意見、感想を「同窓生の声」として受け付けています。

詳しくは上欄、投稿規定をご参照ください。皆様ふるってご投稿くださいますようお願いいたします。

(編集幹事/細川雅史 平2食)

食文化の急速な国際化に伴い水産総合商社を目指す道水



株式会社 道水

代表取締役会長 高野洋藏

(昭和24年製造科卒業)

代表取締役社長 高野元宏

水産物卸売及び加工販売、水産物輸出入、冷凍冷蔵倉庫、不動産賃貸業

本社 函館市豊川町27番5号 TEL(代)0138-22-7136 FAX 0138-22-3777

事業所 はこだて工場(北斗市)

東京・札幌・能登・韓国釜山

いま豊かな食生活。  
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

# 中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長 石川栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号

鮮魚部 TEL 017(738)1281

冷凍部 TEL 017(738)8221

塩干部 TEL 017(738)5511

加工部 TEL 017(738)6581

企画部 TEL 017(738)1281

管理部 TEL 017(738)1181

ホームページ <http://www.aochuu.co.jp>

### K 海洋土木株式会社

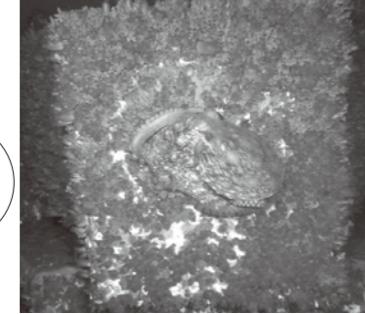
本社 東京都中央区銀座3-9-11

TEL : 03-3544-5511 <http://www.kaiyodoboku.com>

F P魚礁に集まるクロソイ



オクトムに入礁するミズダコ



代表取締役 鈴木和三 (38才)

取締役相談役 真田篤弘 (48才)

青森営業所長 青山禎夫 (39才)

技術部課長 日和久典 (平6才)

専務取締役 石井直志 (49才)

取締役札幌支店長 川眞田憲治 (48才修増)

札幌支店部長 村井和明 (59才)

交通、医療、労働災害事故・会社再建、倒産  
サラ金破産、債務整理・個人再生・相続、遺言

相談料は全て無料です

# 吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世  
(昭和48年増殖学科卒業)

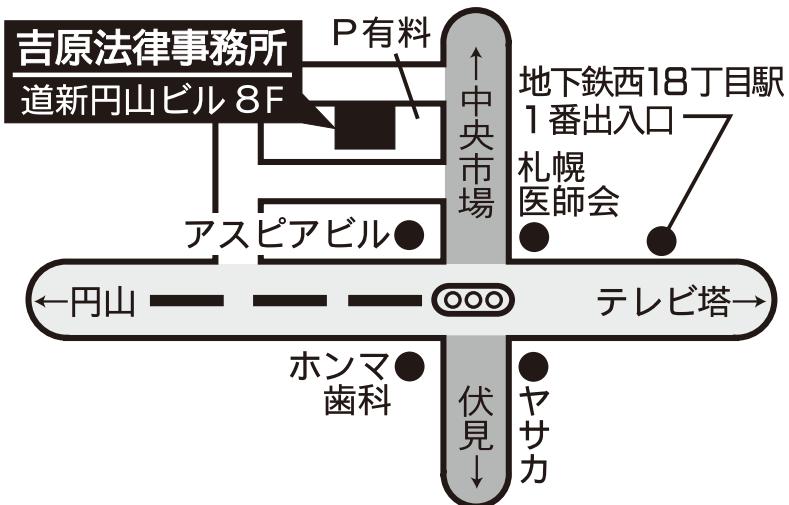
お気軽にお問い合わせ下さい

**TEL 622-7963 FAX 622-8414**

札幌市中央区大通西20丁目2-20(道新円山ビル8階)

〔交通〕東西線西18丁目地下鉄1番出口

〔E-mail〕[lawyer@yoshihara-lawoffice.jp](mailto:lawyer@yoshihara-lawoffice.jp)



営業時間においでになれない方はご相談下さい。